ふるさとの誇り 145

まる博レポート

戦争の記憶をつなぐモニュメント

今年で、アジア太平洋戦争の終結から七十四年を迎えます。戦争を実際に経験した方も少なくなり、今や戦争を学ぶ方法は、経験した方から直接お話をうかがう時代から、記録や資料、または残されたモニュメント（記念碑・記念物・遺跡）などを通じて学ぶ時代になろうとしています。

今回は、市内にのこる、このようなモニュメントのいくつかを紹介し、戦争を考えるきっかけとしていただくとともに、終戦の日を前に、平和への想いを新たにしたいと思います。

教育委員会では、終戦六十年の年である平成十七年度から継続的に、戦争に関する証言や資料の収集と戦争遺跡の発掘調査などを実施してまいりました。今後とも「ふるさと〇〇博物館事業」などを通じて、戦争の記憶を集め、のこし、次の世代へリレーする活動を行ってまいります。

文／写真　文化財課

旧八田小学校の奉安殿（ほうあんでん）(※)（長盛院　徳永）

現在の南アルプス市百々、上八田と旧八田村域の子どもたちが通った旧八田小学校（国民学校）の奉安殿も、他の多くの学校の奉安殿同様、GHQ の指令に基づき、戦後解体された。しかしその後、地域の有志により徳永の長盛院境内に移築され、現在は戦没者の位牌と遺影、遺骨が納められ、その慰霊の場となっている。春のお彼岸には、遺族によって、秋のお彼岸には、地元徳永区によって、今もここで慰霊祭が行われている。

奉安殿のカギ
八田学校の焼印がみられる

戦没者の墓（市内の各寺院など）
※写真は了円寺　飯野新田

お寺の境内のよく目立つ場所に、戦没者の碑やお墓が設けられていることがある。戦没者の墓は、墓石の上面が四角錐に少し尖っているので、すぐに見分けられる。墓石には戦没地が刻まれ、当時の人々がアジア太平洋地域の、実に様々な場所で亡くなったことを教えてくれる。

満州開拓受難者慰霊碑
（諏訪神社　吉田）

旧豊村（現在の南アルプス市十五所、沢登、上今井、吉田）が分村して、満州（現中国東北部）に移住した開拓団が、終戦直後に中国大陸で孤立し、集団自決して村人 140 人が爆死するなどした悲劇を伝える。現在も事件のあった 8 月 17 日にはここで慰霊祭が行われている。

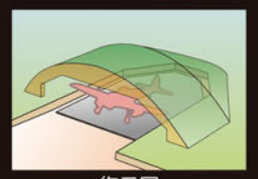
学徒動員の碑
（白根飯野小学校　飯野）

戦時中、ほとんど授業が行われず、当時の小学生が勤労動員によって働かざるをえなかった歴史を伝えるため、これを体験した白根飯野小学校の卒業生たちが母校に建立した。勉強がしたくてもできなかったくやしさを、後輩たちに伝えるため、碑は六角柱の鉛筆の形をしている。

平和の鐘（長谷寺　榎原）

戦前の金属回収令によって失われた鐘を、先代の住職が戦没者の慰霊と平和への祈りを込めて、托鉢により広く浄財を集め、再興した鐘。内側には、西郡の集落ごとに戦没者 951 名の名前がびっしりと刻まれる。その後ヒビが入ったため、現在は本堂西側に安置されている。

ロタコは、陸軍が地域住民や学生を動員し、朝鮮半島出身の労働者なども関わって、戦争末期に白根地区を中心に構築した施設群。滑走路や横穴壕、誘導路や飛行機を隠し格納する掩体壕（えんたいごう）などからなる。ロタコは暗号名。当時の施設の名残りは、今も各所にみられ、３号掩体壕もそのひとつ。コンクリート製の基礎に、現在は失われるが、木製のドーム型の蓋いを架ける構造で、鉄材やコンクリートなどが枯渇する中、木造でドーム型の構造を実現するために設計された。戦争末期の切迫した資材の状況を示しており、現在は市の指定文化財になっている。



復元図

ロタコ跡３号掩体壕（ろたこ　えんたいごう）（飯野）

（※）奉安殿とは・・・戦前の日本において、天皇と皇后の写真（御真影）と教育勅語を納めていた建物（Wikipedia）。
全国の小学校（国民学校）などに建設されたが、戦後 GHQ の指令により廃止された。